

# 兵庫県立 考古博物館 NEWS



Hyogo Prefectural  
Museum of  
Archaeology



2021 Spring-Summer

2021年春夏号

- 春季特別展「弥生時代って知ってる？—2,000年前のひょうご—」
- 加西分館新展示室オープン記念展「中国王朝の粹美」
- 夏季企画展「淡路島発掘」
- 望塚銅鐸復元プロジェクト—相生産業高校との連携事業—
- 週末の古代体験—コロナ禍でもできる手軽な体験を—
- 新しい情報発信ツールはじめました

## 春季特別展

### 「弥生時代って知ってる？—2,000年前のひょうご—」

期 間：令和3年4月17日(土)～7月4日(日)

昨年春、新型コロナウイルス感染症により開催延期となった特別展「弥生時代って知ってる？—2,000年前のひょうご—」を今春開催します。

弥生時代が大きなテーマの特別展。さて弥生時代とはいったいどのような時代だったのでしょうか？

ここでは、弥生時代の「衣食住」について紹介します。

#### ■ 弥生人の衣服

弥生時代の日本列島について記した「魏志倭人伝」には弥生人の服装と布織物についての記述があります。男性の衣服は、幅広い布をただ結び合わせるだけで、女性は布の真ん中に穴をあけて頭を通して着る「貫頭衣<sup>かんとうい</sup>」であったと記載されています。さらに、稲や麻を植え、蚕<sup>かいこ</sup>を飼って糸を紡ぎ、目の細かい麻布や絹織物を産出したとあります。この記述の通り佐賀県吉野ヶ里遺跡では、縫い目のある絹布が見つかっています。また機織<sup>はたお</sup>りの道具が神戸市玉津田中遺跡から出土しています。しかし、長さが50cmほどしかなく、これでは幅30cmほどの布しか作れません。貫頭衣は、実際には布を縫い合わせて作ったのではないのでしょうか。



機織りの道具 玉津田中遺跡出土 当館蔵

#### ■ 弥生人の食べ物

弥生時代といえば米作りですが、縄文土器についた粃<sup>か</sup>の痕跡によって、縄文時代の末にはすでにコメが日本列島に入っていたことがわかっています。

大陸との交流によって北部九州で始まった水田稲作は、ゆっくりと各地に広がりました。コメ以外にもコムギやアワなどの穀物類が栽培され、野生動物であるシカやイノシシ、海でとれるマダイやマグロ、タコツボを使ってとったタコも食卓に並びました。弥生人の食べ物は現代人と変わらないですね。



タコツボ 玉津田中遺跡出土 当館蔵

#### ■ 弥生人の住まい

弥生時代の建物は縄文時代から続く、大きく地面を掘り込んで造られた竪穴住居や、柱を立てて地上に建物を造り、倉庫などに使用された高床建物です。今の建物のようなたくさんの部屋やトイレ、お風呂はありません。トイレやお風呂は近くの水辺、川などを利用したと考えられています。

当館のある遺跡公園「播磨大中国古代の村」は昨春リニューアルし、竪穴住居や植栽が整備されました。本展覧会と新しくなった遺跡公園で弥生時代を体感してみませんか？

(学芸課 松岡 千寿)

古代鏡展示館(加西分館)に新展示室が完成！ 令和3年4月29日(木・祝)オープン

## 新展示室オープン記念展「中国王朝の粹美」

期間：令和3年4月29日(木・祝)～9月12日(日)

平成29年4月に県立フラワーセンター内に開館した古代鏡展示館(当館加西分館)は、新展示室増築工事のため昨年秋より休館していましたが、今春工事が完了し再オープン。展示室が2つになったことで、新たに千石唯司氏から受贈した青銅器などの作品を加え、館内の展示内容も一新。歴代中国王朝の儀礼や権力者の生活などにかかわる作品約180点を展示する「中国王朝の粹美」を開催します。

第1展示室では「青銅の時代」をテーマに、二里头(夏)から漢・三国時代(約3,700～約1,800年前)

までの造形や技術に優れた青銅器や鏡を展示。また、鈴・鐘・鐃・鐃子といった中国古代の儀礼に用いた楽器を特集した展示「青銅の響き」も見どころです。

新設となる第2展示室では「唐王朝の精華」をテーマに精巧かつ豪華な金銀器や宝飾鏡、華麗な三彩俑など、繁栄の中で王朝文化が花開いた隋・唐代(約1,400～約1,200年前)の逸品をご覧ください。

広くなった展示空間で、古代中国美術の粋をゆっくりお楽しみください。

(事業課 村上 賢治)



しょう  
鐘(春秋戦国)



しゃく  
爵(商)



さんさいてんのうよう  
三彩天王俑(唐)

夏季企画展

## 淡路島発掘

7月22日(木・祝)～8月29日(日)

「国生みの島・淡路」として日本遺産に認定された淡路島。これまでに発掘された出土資料の中から淡路島を特徴づけるマツリや生業の道具を紹介し、島内外の交流や政治的関係をひも解きます。

縄文時代後期の佃遺跡(淡路市)や弥生時代後期の二ツ石戎ノ前遺跡(洲本市)では、水銀朱が付着した土器や石器が見つかり、島内で水銀朱を精製していたことがわかります。また弥生時代

中期の下加茂遺跡(洲本市)では、精美な木製杓子の表面に朱が塗られていることから、朱は神聖な力を持つものとして、マツリの道具に塗られるなどして使われていたと考えられます。

古墳時代の中期から後期の木戸原遺跡(南あわじ市)や雨流遺跡(同市)では、加工しやすい滑石を用いた鏡や勾玉、剣などの形代が多く出土し、さらに、大きな勾玉のまわりに小さな勾玉が取り付く珍しい子持勾玉も出土しています。これらの遺跡では朝鮮半島系の資料である鉄鋌(鉄素材の延べ板)や韓式系土器が出土していることから、三原平野が瀬戸内航路の重要な拠点であったことがわかります。ほかにも島内各地の遺跡からは製塩土器や漁具などが出土しており、淡路島の人々が海と深い関わりをもって暮らしていた様子をうかがうことができます。



滑石製子持勾玉  
(雨流遺跡)



朱が塗られた杓子  
(下加茂遺跡)

(学芸課 上田 健太郎)



## ◆「望塚銅鐸復元プロジェクト」ー相生産業高校との連携事業ー◆

兵庫県立相生産業高等学校の機械科では、平成26年度から地元の企業や博物館などと協力して、3年生の課題研究という授業の中で古代の青銅器の復元に取り組まれてきました。このたび、当館所蔵の望塚銅鐸<sup>ぼんづかどうたく</sup>を復元したいとお話があり、当館と連携して「望塚銅鐸復元プロジェクト」を実施することになりました。



鋳型から銅鐸を取り出す様子

一部が欠損するものの、全体的によい状態で保管されています。東播磨地域で出土した数少ない銅

望塚銅鐸は、大正3年頃に加古川市八幡町で見つかった弥生時代中頃(今から約2,000年前)

の銅鐸です。

鐸であり、当館ではX線を用いた形状調査や金属分析など、詳細な研究を行ってきました。

プロジェクトでは、当館の学芸員が金属成分の比率や厚み、微細な形状などについて助言し、それを元に授業で作成した復元品を学芸員がチェックする、といった手順を繰り返しました。薄さと色の再現に苦労し、試行錯誤を繰り返した結果、ようやく完成させることができました。

完成した復元品は、本物の望塚銅鐸とともに春の特別展「弥生時代って知ってる？ー2,000年前のひょうごー」で公開する予定です。復元過程の映像も放映しますので、お楽しみに。



完成した復元品

(学芸課 松岡 千寿)

## ◆週末の古代体験ーコロナ禍でもできる手軽な体験をー◆

新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となったイベントの代替プログラムとして、令和2年9月から、「週末の古代体験」を実施しています。

このような状況の中においても、ご来館いただいた方々に古代体験を楽しんでいただきたいとの想いで、不定期ですが週末の土・日・祝日いずれかの午後に、いつもと少し違った古代体験を無料で提供しています。

このイベントでは学芸員が新しく開発した古代体験を試行的に行っており、普段体験できないプログラムに参加することができます。また、小さなお子さんや

障がいをお持ちの方も気軽に参加していただけるような体験をご用意しています。

これまでに「石包丁で穂摘み体験」「石器を使って木の実をつぶそう」「貫頭衣をつくろう」「はにわマグネット」など様々な体験を多くの来館者に楽しんでいただきました。

「週末の古代体験」は令和3年度も引き続き実施していく予定です。考古博に来て、週末の古代体験をやっていたらラッキー！ ぜひご参加ください。

(学習支援課 新田 宏子)



はにわマグネット



週末の古代体験風景



布作面

## 新しい情報発信ツールははじめました

展覧会や各種イベントなど当館の情報をより多くの方に迅速にお届けするため、情報発信ツールを一新しました。なお、開館以来毎月発行してきたメールマガジンについては、SNSに役割を譲り、令和3年3月をもって終了しています。

### 【ホームページのリニューアル】

令和3年3月中旬にホームページを全面リニューアルしました。スマートフォンへの対応、イベント予約の刷新など、これまでよりご利用いただきやすくなっています。

### 【SNSでの情報発信】

令和2年4月からフェイスブックでの情報発信をはじめました。日々の博物館の様子やイベント情報をお届けしています。また、令和3年2月からInstagramもはじめています。館蔵品の紹介やイベントの様子などの画像をお届けしています。

### 【YouTube「ひょうごこはくチャンネル」の開設】

博物館のPRや講座などを配信するため、令和2年7月にYouTube公式チャンネルを開設しました。今後も様々な動画を配信していきますのでご期待ください。



Facebook



Instagram



YouTube



動画撮影の様子

## イベント・スケジュール

### ■春季特別展関連講演会【要予約・無料】

5	15	土	オンライン講演会「弥生人と漢人(あやひと)の浜」
5	22	土	望塚銅鐸を復元する
6	12	土	発掘でわかったひょうごの弥生時代

### ■夏季企画展関連講演会【要予約・無料】

8	7	土	淡路島の考古学を楽しむ
---	---	---	-------------

### ■兵庫考古学研究最前線2021講演会【要予約・無料】

7	17	土	古墳時代の兵庫①「古墳時代の兵庫」
7	31	土	古墳時代の兵庫②「権現山51号墳の三角縁神獣鏡は語る」
8	28	土	古墳時代の兵庫③「県内最大の中期古墳!?—雲部車塚古墳—」
9	18	土	古墳時代の兵庫④「兵庫の大型横穴式石室」

### ■イベント【予約不要 当日受付・要観覧券】

バックヤード見学ツアー（各日2回実施）			
7/28(水)	8/4(水)	8/18(水)	8/25(水)
学芸員によるミニ講座			
7/17(土)	7/31(土)	8/28(土)	9/18(土)



■感染状況や天候等によりやむを得ず予定を変更させていただく場合がございます。

■講演会、体験講座の申込み方法、開催時間、参加費等の詳細はホームページでご確認ください。

### ■体験講座【要予約・有料】

6	5	土	遺跡ウォーク「赤穂市・有年の遺跡散策」
6	19	土	金印を作って、手紙を出そう(午前)
6	19	土	金印を作って、手紙を出そう(午後)
7	11	日	貫頭衣をつくろう
7	18	日	はじめての土器づくり
7	22	木	自然を染めよう
7	25	日	古代の技に学ぶかごづくり
8	1	日	貝輪と木のまが玉づくり
8	8	日	古代の組紐に挑戦
8	20	金	キラリ!ガラスまが玉づくり
8	22	日	砂型で銅鏡づくり

### ■毎日できる古代体験

「まが玉づくり」 当日来館後、体験学習室にてご予約ください。  
実施時間 ①10:30～ ②13:00～ ③14:30～ 10時から先着順です。

### ■週末の古代体験

短時間でできる遊び心あふれる体験メニューをご用意しています。  
不定期開催。予約不要。当日来てのお楽しみです。

## 兵庫県立考古博物館NEWS vol.27 2021 Spring-Summer

発行年月日 令和3年3月15日

編集・発行 兵庫県立考古博物館  
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1  
TEL.079-437-5589  
FAX.079-437-5599  
<https://www.hyogo-koukohaku.jp/>

- 電車をご利用の方／JR土山駅南口から「であいのみち」を徒歩15分  
山陽電車播磨町駅から瀬瀬川沿いを徒歩25分
- お車をご利用の方／第2神明・加古川バイパス明石西ICから約3km  
※自家用車でお越しの方は町営大中遺跡公園駐車場(64台/有料)もしくは町営野添であい公園駐車場(50台/有料)をご利用ください。  
イベント等の実施により混雑する場合がありますので、ご注意ください。
- 休館日／月曜日（祝休日の場合は翌平日）



触れる・体感する、考古学のワンダーランド  
**兵庫県立考古博物館**

